

福祉医療協の歴史とこれから ⑦③

城北病院のあゆみとこれから

公益社団法人石川勤労者医療協会
城北病院 事務長 西谷 求

1. はじめに

1949年、戦後の混乱の中、医療制度が十分でなかった時代に「医療にめぐまれない人々に安くて親切な医療を」「働く人々が安心してかかる診療所を」など無差別平等の理念を掲げ、賛同する支援者や地域住民の皆様の出資により当院の前身である「しろがね診療所」は開所いたしました。1956年には現在の京町に前・城北診療所が開所し、6年後には病院化、その後60年以上に渡り常に地域の要求に応える活動を重視してまいりました。また「生計困難者に対し、無料または低額な料金で診療を行う」無料・低額診療実施医療機関に指定され、経済的困難な方へ医療を提供するとともに、患者・地域住民に対しての無料健康相談、保健教育を行ってきました。



城北病院 外観

2. 沿革

- 1949. 8 しろがね診療所開設
- 1953. 1 内灘診療所開設
- 1956.12 城北診療所開設
- 1962. 5 城北診療所から
27床の城北病院へ
- 1965.10 46床に増床
- 1969. 4 90床に増床 南棟開設
- 1973.10 152床に増床
- 1981. 6 184床に増床 西棟開設
- 1987. 5 250床に増床 東棟開設
- 1999.10 292床に増床 療養病棟開設
- 2002.12 新・城北診療所開設
(外来部門の近接診化)
- 2003. 4 基幹型臨床研修病院の指定
- 2004. 5 305床に増床 北棟開設
(リハビリ、透析、病棟)
- 2007. 2 314床に増床 救急病棟開設
- 2016. 5 新病院建設着工
(4期に分けて現地建替)
- 2019. 4 緩和ケア病棟開設
- 2019. 8 HCU開設
- 2020. 6 300床の新病院グランドオープン



エントランスホールのステンドグラス

3. 病院の概要

理事長 島隆雄
 院長 大野健次
 経営主体 公益社団法人石川勤労者医療協会
 病床数 300床
 一般病床210床
 (HCU10床、一般急性期92床、
 回りハ46床、地ケア42床、
 緩和ケア20床)
 療養病床90床
 診療科 標榜23科
 内科 精神科 神経内科 呼吸器内科
 消化器内科 消化器外科 循環器内科
 アレルギー科 リウマチ科
 小児科 外科 整形外科 呼吸器外科
 皮膚科 泌尿器科 肛門外科
 婦人科 眼科 気管食道科
 リハビリテーション科 放射線科
 麻酔科 病理診断科
 職員数 約550人

4. 理念・基本方針

当院では加盟する全日本民主医療機関連合会(民医連)の「綱領」を理念として掲げ、「私たちのめざすもの」として目標を次のように明文化しています。

今、格差が広がる中で、国民の生活が大きな打撃を受けています。追い討ちをかけるように、社会保障の改悪がすすめられ、地域の皆様、患者様が安心して医療や福祉を受けることが出来ない事態がすすんでいます。私たちは、皆様方と一緒に、この事態を改善するために努力します。

同時に皆様方と一緒に施設の拡充、療養環境の整備を行い、人権が尊重され、かけがえのない”いのち”が大切にされる医療福祉を進めるために、努力します。

1. 私たちは「患者の立場に立つ」ことを宝物とし、生活と労働や社会的・経済的状態(SDH※)を把握して、共に病気をよくし健康を守るよう努めます。
1. 私たちは、皆様の医療福祉への期待に応えることができるよう、新しい医学・技術を学び、専門的な力を高める努力とともに、安全安心の医療福祉を提供できるよう努めます。
1. 私たちは、ヘルスプロモーションホスピタルとして地域の皆様、他の病院や施設と共同してネットワークをつくり、無差別・平等の地域包括ケアを実践し、平和で安心して住み続けられるまちづくりに努めます。
1. 私たちは平和な日本、核兵器のない世界をめざし核兵器禁止条約を支持します。
1. 私たちは、日本国憲法のもと、人権が守られ、

すべての人々が等しく、適切な医療や福祉を受けられることができるように、社会保障の拡充に努めます。

この立場から無料・低額診療を行い「差額ベッド料」の徴収は行いません。

※SDH・・・健康の社会的決定要因のこと

5. 近年の取り組みと今後

近年、建物の老朽化が顕著となる中、「終末期を城北病院で過ごしたい」、「これからも救急の際は受け入れてほしい」等の地域の要望に、より一層応えられるよう2016年より現地で建て替えを開始し、2020年6月に新病院がグランドオープンしました。現地建て替えのため工期期間は4年と長く、騒音や振動による診療の中断や度重なる院内での引越しなど多くの困難がありました。患者さん、地域の方、そして職員の協力で無事完成に至りました。新病院建設にあたっては「ホスピタルアート」を導入

し、アートの専門家の協力も得て、患者さん、地域の皆さん、職員で力を合わせ、エントランスホールのステンドグラスや中庭を彩る陶芸、壁画をつくりあげ、設置しました。

また、新病院稼働にあたっては、HCU（10床）と念願であった緩和ケア病棟（20床）を新設しました。

グランドオープンした2020年春頃より新型コロナウイルス感染症により当院も外来・入院患者の減少などで経営に大きな影響を受けました。その影響は現在まで続いており、経営的には大変厳しい状況となっています。一方、コロナ禍で、8050問題や、身寄りのない独居高齢者など、社会的な課題が益々顕在化しています。無差別平等の医療を実践する事業所として、この地域で「安心して暮らし続けることのできるまちづくり」の一端を担うべく、多機関との連携をすすめながら、職員の人権感覚を研ぎ澄まし一丸となって力を尽くしていきます。



中庭の壁画